



発行 公益社団法人
武蔵野市シルバー人材センター
編集 広報編集委員会
武蔵野市中町 3-5-16
電話 0422-55-1231 (代)
URL <http://www.musashino-sc.or.jp/>

213(夏)号 もくじ

■令和元年度定時社員総会……………	1
■役員交代ごあいさつ、SCトピックス……………	2～3
■平成30年度健康フェスタを終えて……………	4
■私のふるさと……………	5
■武蔵野・ぶらり・時空旅……………	6～7
■ひろば、新入会員紹介、お亡くなりになった方、 編集後記……………	8

定時社員総会開催される

令和元年度定時社員総会が6月27日開催されました。当日は例年同様梅雨期で小雨の心配の中、今年は「消費者被害の現状と対応策」と題して武蔵野市消費生活センターにより社員総会前30分間講話の会員セミナーを開きました。

出席者の集中力が高まった13時に定時社員総会の開会が総務部会長の安達勝理事から告げられ、武蔵野市長松下玲子様、武蔵野市議会議員小美濃安弘様、武蔵野市老人クラブ連合会会長小林宏様にご臨席を頂き、加藤之義会長の挨拶から開始されました。

市長初め来賓の方々から日頃の皆様の活動の有意義さや活躍を労ったお言葉をいただきました。

小美濃市議会議員の私見とおっしゃりながらもシルバー人材センターの建屋について言及された際に会場全体に希望が膨らむのを感じました。

次に会員表彰が行われ、20年在籍表彰対象者11名と10年在籍表彰対象者39名、代表して20年在籍表彰は境の青木如男さん、10年在籍表彰は中町の岐部和子さんが受賞されました。(写真)



青木如男さん



岐部和子さん

議題に入る前に加藤会長より出席者数の確認をし、本定時社員総会の有効会員数は1,166人、本会場出席者数213人と委任状と議決権行使書646人の計が859人となり、令和元年度定時社員総会は有効に成立していることの報告がなされました。

加藤会長から議長選出の要請があり、会場から“会長一任”の発言が出て、加藤会長は本定時社員総会議

長に西久保の大石彰会員を指名し、異議なく大石彰会員を選出しました。大石議長が議長席に着き、議題審議に入りました。

第1号議案「平成30年度計算書類等の承認の件」で、先ず中野菱子監事より監査報告がなされ、続いて盛田隆平事務局長より計算書類の説明がなされ、計算書類の一部表記に変更はありましたが、明快な説明で幾つかの事前質問にも納得いただける応答がされ混乱なく承認されました。第2号議案「理事15名選任の件」では盛田事務局長より一人ずつ提案があり、大石議長が賛否を問い、15名全員信任されました。第3号議案「監事2名選任の件」では監事2名がそれぞれ盛田事務局長より提案があり、大石彰議長により賛否が問われ2人其々信任されました。これにて審議議案が終わり、大石彰議長を解任し、田中副会長より令和元年度定時社員総会閉会の挨拶をもって閉会しました。(14時42分)

総会閉会后早速、幕を閉めた舞台上で臨時理事会を開き新三役(代表理事:正・副会長各1名と常務理事)を選出決定し、総会会場でお待ちいただいていた会員へ結果を報告し紹介しました。会長は加藤之義氏、副会長は田中雅子氏、常務理事兼事務局長に盛田隆平氏が紹介され、挨拶されました。

今回退任された理事の役員表彰が行われ、対象の2期4年以上就任では、船戸勲氏(5期)、伏野嘉高氏(5期)、岡部正氏(3期)の3名が表彰され、代表して船戸勲氏が退任のあいさつをされました。

定時社員総会と関連事項を全て終了いたしました。(15時20分)

<今年は財団の方々
が視察にお越しに
なっていました>



定時社員総会会長挨拶

役員交代ごあいさつ



新任 事務局長 盛田 隆平

4月に事務局長を拝命いたしました盛田隆平です。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本年5月に平成から令和に変わるという歴史的な出来事がありました。私も職員生活の大部分を平成で過ごしましたので、多少寂しさを感じました。しかし、今年はワールドカップラグビー、来年は56年ぶりに東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。令和時代の幕開けにふさわしい国際的なイベントで、全国が大いに盛り上がると思います。

武蔵野市シルバー人材センターも新しい時代とともに「元気に明るく楽しく」、ますます発展していくよう私も微力ながら精一杯頑張っております。どうぞよろしくお願いいたします。



新任 桜堤 内山 光男

武蔵野市シルバー人材センターに入会して2年余りですが、先輩方の後押しにより理事に就任することになりました。シルバー人材センターを通して社会参加ができればと思っております。なお、現在は小学校で施設管理の仕事をしております。

どうぞ、よろしくお願いいたします。



新任 境 加藤 力弥

今回、ご縁あって境地区の理事にご推挙いただきました加藤力弥です。シルバー人材センターの会員になってまだ2年弱、施設管理の業務に従事して1年半の弱輩者です。東京六大学野球や大学ラグビーの試合をビール片手に観戦すること、好きな落語を聴くこと、下手の横好きのコーラスで歌うことにハマっています。

超高齢社会が進展する中、少しでもシルバー人材センターの発展に寄与すべく、微力を尽くしていきたいと思っております。



新任 吉祥寺東町 篠原 尉浩

2010年入会の篠原です。シルバー人材センターの目的・役割・方向性(目指す)は沢山ありますが、私は魅力あるSC作りが肝要と考えます。リンカーン語録から「会員の会員による会員の活動」として魅力ある仕事の開拓、従事会員の増強、そしてそれは会員一人一人が常に頭に置いておかねばと思います。言うは易く行うは難しですが、会員・先輩・事務局の皆様のご指導を頂き進める所存です。

SC会員各位「老イズ・ビー・アンビシャス」。どうぞよろしくお願いいたします。



新任 緑町 宮本 雄一郎

緑町担当の宮本雄一郎と申します。住みやすい環境を提供してくれる武蔵野市への思いと、高齢化が進む社会の中でささやかでも何かできればという思いが、理事職引き受けの動機です。

武蔵野市在住十四年、シルバー人材センター登録一年半の駆け出し者ですが、諸先輩に教を仰ぎながら、正副班長さん、会員の皆さまと共に活動していきたいと考えておりますので宜しくお願い申し上げます。



新任 吉祥寺本町 山岸 省一

本町・御殿山地区担当理事に就任いたしました山岸省一です。70歳を過ぎてシルバー人材センターに入会し、現在は小学校の施設管理の仕事をしております。働く意欲のある高齢者が増え続ける社会においてシルバー人材センターの果たす役割は益々重要になってくると考えます。私自身センターでの経験は些少ですが、会員の皆様が楽しく元気に希望・能力に応じた就業、社会参加ができるよう微力ながら理事を務めさせて頂きたいと思っております。

よろしくお願いいたします。

退任 前事務局長 中村 義明

このたび、平成31年3月31日をもちまして事務局長の職務を離れることとなりました。理事をはじめとする会員の皆様のご理解・ご協力により、また、職員の皆様の誠実な業務遂行に支えられ、2年間という短期間ではありますが、稚拙な私が無事努めることが出来たことを心から感謝申し上げます。4月からは市役所において就業いたします。お会いする機会があるかと思しますので、その節はよろしく願いいたします。

センターにおかれましては、今後とも理事を中心に会員の皆様と職員が協力し、継続・発展させていただければと思います。最後になりましたが、皆様の今後のご活躍・ご健勝をお祈りし、退任のあいさついたします。ありがとうございました。

退任 吉祥寺東町 伏野 嘉高

シルバー人材センターへの入会は平成17年になります。リサイクル班、ムーバス調査、学校の下校時見守り、市報配布に就業させていただきました。また、理事として4期を越える期間務め、総務部会、事業部会、シルバーの諸行事にも携わりました。その間、事務局職員や地域の会員の方々の応援を得て今日までこられたと思い、心から感謝の気持ちで一杯です。

今後は一会員としてセンター及び地域への貢献に力を注ぐことを目標にしていきたいと思います。本当に長い間ありがとうございました。

退任 桜堤 船戸 勲

シルバー人材センターの仕事に参加させていただき14年。その間、地区集会、班長・副班長会議、地区のボランティア等にも参加し、理事になってからは地区の正・副班長の方々のご協力と事務局の皆様のご指導とご支援でここまでこられました。皆々様に感謝申し上げます。

今後は、一会員としてシルバー人材センターの発展に何らかの形で協力できればと思います。

退任 吉祥寺本町 岡部 正

理事に就任以来、人材センター会員の皆様のサポートに支えられ、未熟な点や至らなかった事などもあったとは思いますが、何とか無事に任期を終えることが出来たのではないかと考えております。過ぎてしまえば短い期間のような気もいたしますが、おかげさまで充実した時間を過ごすことが出来ました。

今後は一会員としてシルバー人材センター及び地区の活動に貢献したいと考えております。六年間にわたりお世話になりました。

退任 境 浅野 利男

このたび、理事を退任することとなりました。在任中の2年間、地域の会員の皆様と共に歩み、充実した時間を過ごすことが出来ました。分からないことも色々教えていただき、無事任期を全うすることが出来たのは、ひとえに事務局、各理事皆様方のご指導のおかげです。心より感謝申し上げます。

これからは一会員として引き続きシルバー人材センターを応援してまいります。

シルバー人材センターの益々のご発展と皆様のご健康をお祈りいたします。

退任 緑町 武田 淑子

1期2年、緑町の理事をいたしました。何も分からず、右往左往しながらのスタートでしたが、理事の方々、事務局の方々や地域の多くの皆様の優しい笑顔とふれあう事で仕事を全うすることができました。貴重な経験の数々に力を貸してくださいました皆様、どうもありがとうございました。

むさしのSCTピックアップ

4/7(日) むさしの桜まつりに、手芸・小物班が出店しました。

4/10(水) 松上市長がシルバー人材センターを視察されました。

5/15(水) 安全標語の表彰式がありました。入賞した標語は、各ページの下段に掲載しております。

6/2(日) 武蔵野市ごみゼロデーの清掃活動に参加しました。

6/27(木) 令和元年度定時社員総会が開催されました。



▲2019年
むさしの
桜まつり



▲2019年
ごみゼロデー



◀視察する
松上市長

平成30年度 健康フェスタを終えて

3月13日気温19℃と春本番のような陽気の中、武蔵野市公会堂にて健康フェスタが開催されました。この健康フェスタは会員の益々の健康増進と同じ市民でまだシルバー人材センターを知らない方や、入会を迷っておられる方など、同じ60歳以上の共通のテーマで集い交友を深めましょうと企画しています。

長寿でも健康を維持するには必要な知識や身体的ケアが大切で、今回の講話と肩甲骨体操は大変意義があり、この様な目から鱗的なことを同世代で共有でき大変良かったと思います。

午後12時半頃より会員、友人家族等の来場者の受付が始まり、時間とともに来場者が増え開始時刻の13時30分ごろには100名ほどになりました。

定刻になり安達勝総務部会長の司会により開会され、最初に武蔵野市シルバー人材センター会長の加藤之義より開会の挨拶があり、過去の健康フェスタの振り返りと今後のフェスタのあり方が述べられ、会員及び同世代の市民との交流の場である本会を通じての会員拡大への取組等についてのお話がありました。



第一部は大塚製薬(株)のニュートラシューティカルズ事業部 大槻武史様の健康講話となりました。「3月は季節の変わり目」、「体調管理と免疫力UPの為の栄養と食事」と題するパワーポイント27枚におよぶ講話でした。

第二部は早稲田大学非常勤講師 ^{かねくに}包國友幸先生の「肩スッキリ体操」の講義が始まりました。

最初に「肩関節」と「肩回りの筋肉」の認識と、実際の肩の骨、肩関節、肩回りの筋肉の違いを詳しく画像や動画などでの説明があり、次に肩甲骨についての基本的な動きと実際に座ったまま上下・回転・回旋などを行い、関節と腕の可動範囲の違いなどの説明が行われ、全員その場で立ち上がり頸部(首)のコンディショニング、肩甲骨のコンディショニング、上肢のコンディショニングを色々なパターンを通して自分で行える方法の丁寧な指導がありました。約70分の実技込みの有意義な講義だったと思いました。閉会の挨拶があり無事に第3回健康フェスタを閉会することができました。ご来場の皆様ありがとうございました。



早稲田大学非常勤講師
^{かねくに}包國友幸先生



大塚製薬(株)のニュートラシューティカルズ事業部
大槻武史様



会場の様子

私のふるさと

—— 第19回 熊本県・山鹿市 ——

やまが

吉祥寺本町

大西 恵子 会員



★夕闇に浮かびあがる浴衣姿の女性たちは頭上に金・銀の紙灯籠を載せ、ゆったりした調べに合わせて舞う。踊りの輪は幾重にもなって、見る人を幻想的な灯りの世界へと誘う。

★今回登場いただく大西さんは九州人らしい快活な話ぶりでふるさとの夏の風物詩をご紹介くださった。

●山鹿灯籠は室町時代から伝わる工芸品で、木や金具を一切使わず和紙と少量の糊だけで精巧な造りの神殿や城を灯籠にして毎年旧盆に町内の大宮（山鹿）



千人灯籠踊り

神社に奉納されます。盆踊りにあたるのが「千人灯籠踊り」で婦人会毎に揃いの浴衣を着て、頭の上に灯籠を載せて落ちないように（笑）しずしずと踊ります。千人にもものぼる踊り手が何重もの輪になって「よへほ節」に合わせて踊る様は圧巻です。よへほ」とは「お酔いなさい」という意味



灯籠を頭に掲げた女性

で、昔から愛唱されてきたお座敷唄が元になり、“ぬしは山鹿の骨無し灯籠ヨヘホヨヘホ、骨も無けれど肉も無しヨヘホヨヘホ”と唄う歌詞は野口雨情の作です。私は子供だったので灯籠をかぶった覚えはありませんが、母が親戚の人たちと連れ立って踊るのを見ていました。

★大西さんは小学校教員のお父様、畑仕事をされているお母様の下、三姉妹の末っ子に生まれました。お姉様の夫君（義兄）は現在NHK大河ドラマ「いだてん」の主人公の一人、金栗四三ゆかりの地、和水の出身で、車で30分位の隣町です。

●山あり川ありの文字通り“田舎”でした。小学校低学年の頃は学区の外れだったせいもあって子供の足で小1時間かけて田んぼ道を歩いて通っていました。写真1はその頃に家の前で撮ったもの

です。仲良し姉妹で喧嘩をした覚えが殆どありません。遊びと言えば姉たちと鳳仙花の汁で爪を紅く染めたり、“ぜんぜんかずら”の葉っぱのお金で買い物ごっこをしたり女の子らしい遊びをしましたが、時には裏山の崖に水を流して滑り台にしたり、川原で着替えて菊池川で泳いだりもしました。おやつに母が作ってくれた“いきなり団子”は薩摩芋の入った蒸し饅頭のようなもので懐かしいふるさとの味です。



(写真1) 手前左が幼き頃の大西さん

★中学・高校時代を地元で過ごして就職を機に上京され、ご結婚後、吉祥寺へは平成2年に移ってこられた。上京されてからどんな時にふるさとを思い出されましたか？

●雪が降ると喜ぶ私を周りの人が不思議がります。熊本は雪が珍しく、小学校の時に1度だけ降って大喜びした記憶があります。それから今では大流行の“とんこつラーメン”ですが、当時東京にはありませんでしたから食べられる店が吉祥寺に出来た時は嬉しかったですね。また、ある時テレビを見ていたら何処かで見たことのある風景が…。小柳ルミ子のキンチョー蚊取り線香のコマーシャルでしたが、バックにあの菊池川の花火が映った時には夏祭りの思い出が一期に甦りました。

★18才で上京された大西さんのふるさと山鹿市は豊前街道の宿場町として栄え、湯量豊富な温泉と浪漫あふれるレトロな街並みが今も残る。中でも「八千代座」は回り舞台、桝席、花道など歌舞伎小屋の様式を今に伝える国指定重要文化財である。明治43年実業家“旦那衆”が私財を投じて建てたもの。現在、舞台上で演じられる勇壮な山鹿太鼓と灯籠踊りは“動”と“静”の見事なコントラストで熊本観光の目玉になっている。

(聞き手 編集委員：高山)

武蔵野・ぶらり・時空旅

19

吉祥寺北町 下谷 一廣

享保・武蔵野新田開発秘話 PART1

八代吉宗、大岡越前、川崎平右衛門、 武蔵野の農民のドラマ

今回は本稿第7話で取り上げた「享保の改革と武蔵野新田」をドラマ形式で再現してみました。ほぼ史実に基づいていますが当然フィクションの部分もあります。

享保7年(1722)6月江戸南町奉行・大岡越前守忠相と江戸北町奉行・中山出雲守時春は八代将軍・吉宗に呼ばれ居室に伺候した。奥から出てきた吉宗は二人の前に座ると「中山、大岡！そちたち兩名に本日より関東地方御用を申しつける。頼むぞ！」と言った。「畏まりました」と応え二人は頭を下げた。

この時武蔵野の新しい1ページが開かれたともいえる。

吉宗はさらに「わしが思うに、伊奈流の農業は限界に来ている。こここのところ何人もの幕領代官を呼んで話を聞いたが、江戸住まいばかりしおって支配地のこと何も分かっておらん。はっきり言って緩んでおる、そちたちで厳しく指導せよ！頼んだぞ」と言った。この時吉宗38歳、大岡忠相46歳。

御用部屋に戻ると中山時春は「大岡殿、大変なお役目ですぞこれは！」「確かに、しかし上様直々の御下命ですからお断りというわけに参りますまい」と大岡忠相。

中山時春が「大変！」と言ったのももっともなことで、本来年貢の取り立てやそれを実行する幕領の代官は勘定所(勘定奉行)支配下にあった。それに加えて関東郡代が大きな影響力を持っていた。その関東郡代は家康の頃から伊奈家が連綿と世襲してきたのである。伊奈一族は関東における幕領の土地開発、治水事業など農政に係ることを一手に引き受けてきた経緯がある。伊奈家としては面子をつぶされることになる。

この時の関東郡代は伊奈忠達(伊奈家8代目)でさらに勘定吟味役兼務という要職にあった。勘定所と郡代伊奈家二つの勢力が支配してきた職権を町奉行にやらせるということは幕府始まって以来、異例の措置であった。享保2年(1718)41歳という異例の若さで町奉行に抜擢された大岡忠相

は吉宗の期待に応え赫々たる成果を上げていたし、吉宗としては忠相の人望、能力に期待して緩んでいる従来の旧態然とした体制に楔を打ち込み農業政策の転換、米の増産を目指したといえよう。当然旧勢力はこの政策を快しとは思わず大岡グループとの軋轢は激しく、一年足らずで北町奉行中山時春は辞職してしまう。武蔵野の新田開発の成否は大岡忠相一人の双肩に掛かってしまった。様々な妨害や誹謗にさらされながらも、大岡忠相が地方御用を拝命と同時に新田の代官に大岡支配の人物を起用し態勢の立て直しを図るがはかばかしい成果は上がらない。

新田に家建てを決められた広さの土地を開墾したのものには、家建てる費用や農機具を買う資金を提供するといった施策を打ち出したが人は集まらず年貢の未納が続く。

武蔵野新田の代官に配した大岡グループともいえる、岩手信猶、萩原乗秀は中央の役人として有能ではあったが、農政については素人であったし、農民に寄り添った施策は打てなかったともいえる。そこにつけ込んだのが旧勢力である。二人の代官の手代として、素性もはっきりしない浪人、野村時右衛門と小林平六なる人物を送り込み

享保12年(1727)には代官の実権を握ってしまう。資料にはこの二人も大岡グループとしているものもあるが、私は彼らを伊奈忠達の息のかかった人物とみている。

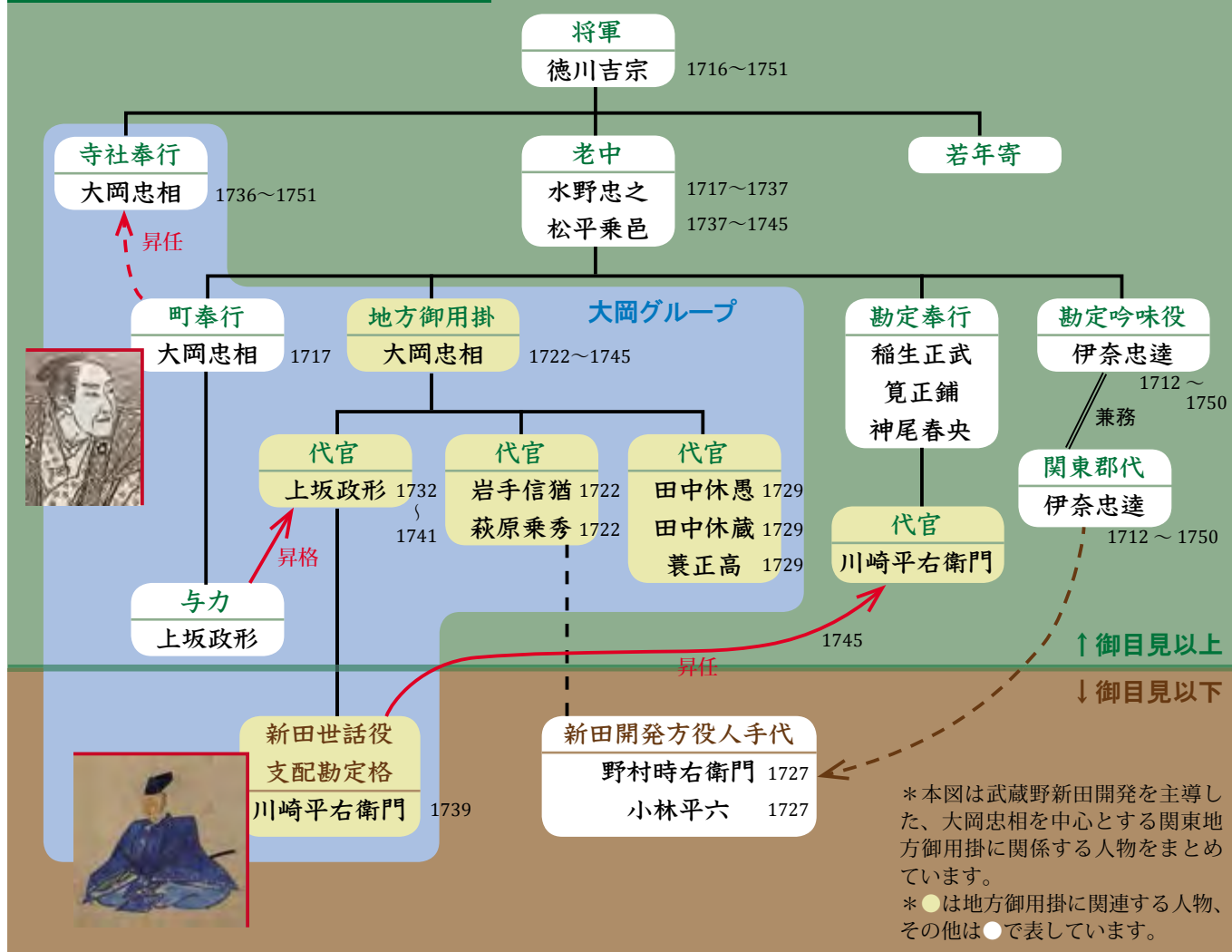
事実享保14年(1729)には小林、野村兩名は年貢金滞納と700両の横領を理由に罷免され追放処分を受けている。さらに同じ年伊奈忠達は配下の監督不行き届きということでお叱りと減俸処分を受けているが大岡忠相はこの件で何の咎めも受けていない。

大岡忠相は自分の懐刀の与力上坂政形を使って収賄の動かぬ証拠を掴んだと思われる。

その一方でなんとか伊奈家との融和を考えていた大岡忠相は町奉行同心隠居の会で耳寄りな話を聞いた。「お奉行も大変ですな！地方御用までなさって」「そうなのじゃよ、何かいい知恵はないか？」と大岡「餅は餅屋ですよ、地方巧者と言われる百姓に信頼されている名主がおりますよ。それをお使いになったらいかがですか」と言われて目が覚めた思いがした。吉宗は日頃から能力があれば身分は問わないといっている。

詳しく話を聞くと一人は府中押立村の名主川崎平右衛門という人物で、もう一人は平沢村(現在のあきる野市)の名主田中休愚だという。しかも彼らは名主ネットワークでつながっており旧知の間柄であるという。さらに大岡が注目したのが「田中休愚は伊奈忠達とも親交がある」という点だ。

武蔵野新田開発人物関連図



(このチャートは次号でも役に立ちます)

大岡はこの二人の名主(農民)を自分の陣営に取り込み武士身分に引き上げ代官に起用しようと思った。田中休愚は「民間省要」、「治民策」という冊子も書いていた。荻生徂徠とも交流があるという。

その後休愚は吉宗に呼ばれ大岡忠相、伊奈忠達同席の上、農業政策について献策したと記録には残っている。田中休愚は吉宗のお墨付きもあり伊奈家も納得し享保14年には支配勘定役(実質的・代官)になり多摩郡、埼玉郡を担当することになった。

大岡忠相が地方御用を拝命して10年目の享保17年(1732)には南町奉行所の与力上坂政形(忠相の腹心の部下)を武蔵野新田の代官に抜擢し、幕府からの公金もつぎ込んで不作農家の救済や畑を囲う雑木林の植林など手立てを尽くしてきた。僅かな光明が見えてきた折しも元文3年(1738)武蔵野新田は未曾有の大凶作となる。

代官の上坂政形が吉宗に呼び出され「そちが支配の新田が大凶作と聞いたが実態はどうなのじゃ？」と問われた。吉宗には御庭番という強力

な情報網があり、いち早く状況を把握していた。的確な返答ができぬままお城を下がり大岡の役宅へ飛んでいき、「上様から御叱りを受けました。腹を切ります」と報告した。「バカなことを言うな！ うーん、わしも迂闊ウカッであったワ速やかに対応策を練って献策せねばなるまい、上坂！ 今から馬を走らせ押立村の平右衛門を訪ねわしの役宅まで同道せよ」と大岡忠相。

ここから川崎平右衛門の大活躍の舞台の幕が上がる。それは次回に・・・。

〈参考資料〉

- 「多摩の代官」村上 直 馬場 憲一 米崎 清実
国立たましん地域文化財団
- 「町奉行」稲垣 史生 新人物往来社
- 特別展「川崎平右衛門 ー武蔵野新田開発の立役者ー」
江戸東京たてもの園
- 「代官 川崎平右衛門 ー時代が求めた才覚の人ー」
府中文化振興財団
- 「大岡忠相」童門 冬二 集英社文庫

乗り鉄ってご存じですか？



武蔵野市シルバー人材センターでは近年魅力化委員会を設置するなどして、入会や就業の魅力はもとより会員間の交流がどうあったら良いのかと試行錯誤しています。そんな中、会員が集まった雑談の中で子供の頃に帰って「乗り鉄なんて面白いかもしれないね」と独り言のように口にしたら、横に居られた女性会員から「乗り鉄って何ですか？」と聞かれました。少年の頃に帰っていろいろな鉄道車両に乗りに行ったり、車両の写真を撮影に行ったり、普段乗らない路線を乗車したり、特別列車情報を得て乗りに行ったり、試乗会で最新型車両に乗ったり、秘境駅へ行ってみたい、遠回り乗りを楽しんだり、廃線情報を得て最終列車に乗ったり、廃線跡を訪れ記念館などを見学や昔利用して居られた方は当時を懐かしんだりできます。少年時代は考えるだけで夢を膨らませていました。今なら親の小言もなく楽しめそうだなと思います。又シルバークパスの有効利用で都内を「乗り鉄」ならぬ「乗りバス」で楽しむのも面白いですよ。最近の話題は富士急行線の「ゴールド富士山」が走っています。スマホ、駅中の利用やバリアフリー化の推進で大いに楽しみの幅が広がっています。

中町 立松



富士急行線の「ゴールド富士山号」大月駅引込み線で

編集後記

令和元号最初の発刊の絆213号の編集後記を担当することになり光栄に感じております。と言うのは長く続いた広報編集委員をこの7月に降りることになりましたので、私にとってはこの期間の最終号になります。最近気になっていることを綴りますと、60歳以上で現役を卒業された方々はお家で何をしているのでしょうか？もっとシルバー人材センター会員が増えても良いのではと不思議に思っています。会員の皆様もどうぞ周りの方々にお声掛けをして、誘ってあげましょう！就業機会を逃しているお仕事はまだまだ沢山あります。また「絆」への寄稿もどしどしお寄せください。

M.T.